

**選手と支援スタッフとの関係に関する**  
**バイオエシックス的研究**

**( 0 9 6 8 0 0 8 2 )**

**平成 9 年度 ~ 平成 1 1 年度科学研究費補助金**  
**( 基盤研究(C) ( 2 ) ) 研究成果報告書**

**平成 1 2 年 3 月**

**研究代表者 近 藤 良 享**

**( 筑波大学体育科学系助教授 )**

## < 研究の概要 >

### 1) 「研究課題」および「課題番号」

研究課題：選手と支援スタッフとの関係に関するバイオエシックス的研究

課題番号：09680082

### 2) 「標題」

平成9年度～平成11年度科学研究費補助金

基盤研究(C)(2)

### 3) 「研究代表者」

近藤良享（筑波大学体育科学系助教授）

### 4) 「研究分担者」

片岡暁夫（平成9・10年度：筑波大学体育科学系教授、

平成11年度：国土館大学体育学部教授）

友添秀則（香川大学教育学部教授）

### 5) 「研究経費」

平成 9年度： 700千円

平成10年度： 500千円

平成11年度： 500千円

合計： 1,700千円

### 6) 「研究発表」

#### ア 学会誌等

近藤良享：薬物等ドーピング問題の未来～過去、現在からの推測．体育原理研究、  
第29号、1999年4月

近藤良享：体育・スポーツにおけるインフォームド・コンセント．体育原理研究、  
第30号、2000年4月

#### イ 口頭発表

近藤良享：薬物等ドーピング問題の未来、日本体育学会体育原理専門分科会夏期  
合宿研究会、1998年7月

近藤良享：体育・スポーツにおけるインフォームド・コンセントについて、日本  
体育学会体育原理専門分科会夏期合宿研究会、1999年7月．

# 選手と支援スタッフと関係に関するバイオエシックス的研究

近藤良享（筑波大学体育科学系）

片岡暁夫（国土舘大学体育学部）

友添秀則（香川大学教育学部）

## < 報告書構成 >

### 第一部：選手と支援スタッフとのバイオエシックス的研究

- 1．薬物等ドーピング問題の未来～過去，現在からの推測
  - 1) はじめに
  - 2) 薬物等ドーピング関連史（1）～1860年代から1970年末まで
  - 3) 薬物等ドーピング関連史（2）：1980年代から現在まで
  - 4) 薬物等ドーピングから遺伝子工学（Genetic Engineering）へ
  - 5) 結論と今後の課題
- 2．体育・スポーツにおけるインフォームド・コンセント
  - 1) 医療現場におけるIC原則の萌芽、成立の経緯
  - 2) 体育・スポーツにおけるIC
  - 3) 体育・スポーツ世界へのIC導入の提言
- 3．新しいスポーツ倫理の原則  
～「インフォームド・コンセントに基づく自己決定」と「開放性」

### 第二部：研究資料

資料1：ヒポクラテスの誓い

資料2：ニュールンベルク倫理綱領

資料3：ヘルシンキ宣言（1964年，1975年東京修正）

資料4：体育学研究における研究者の倫理について（覚書）

資料5：名古屋大学総合保健体育科学センターにおける

ヒトを対象とする研究に関する内規